

平成 2 9 年度
那須塩原市議会「志絆の会」
行政視察報告書



視察期間：平成 2 9 年 8 月 2 9 日（火）～8 月 3 0 日（水）

- I 視察地：愛知県豊田市（豊田市美術館）**
視察日：平成 2 9 年 8 月 2 9 日（火）
視察内容：豊田市美術館の取組について（奈良美智企画展）
- II 視察地：愛知県一宮市（尾張一宮駅前ビル）**
視察日：平成 2 9 年 8 月 3 0 日（水）
視察内容：尾張一宮駅前ビル及び子育て支援施設の取組について

【参加者： 眞壁 俊郎 鈴木 伸彦 金子 哲也】

○視察日 平成29年8月29日
○視察地 愛知県豊田市（豊田市美術館）
○テーマ 豊田市美術館の取組について
（奈良美智企画展）

愛知県豊田市の豊田市美術館を視察研修しました。日本で最も美しいと言われ、美術館としての建築を誇るミュージアムで外観も素晴らしいがアプローチや池、庭園も、新鮮で目を見張るものがありました。設計は、東京国立博物館法隆寺館や京都国立博物館平成知新館等を建築した谷口吉生氏でした。この美術館は、美術の学芸員7名をかかえて、館長以下15名の編成で行き届いた運営が行われていました。



今回の我々の大きな目的の1つは、現在、那須塩原市で建設中の奈良美智美術館の奈良美智氏の企画展を見ることにありました。7月15日～9月24日まで開催されている企画展「奈良美智 for better worse」において、奈良美智の本ものを見て、これから那須塩原市に展開されるであろう現代美術を理解し、市民としてどのように歓迎するかを見極めることでありました。

豊田市の議会事務局が親切に手配下さって、美術館学芸員が最初から最後まで丁寧に説明案内をしてくださり、とても理解しやすく見ることが出来ました。

奈良美智氏の1987年～2017年

にわたる約30年間の歩みを紹介する100点余りに及ぶ作品を展示する奈良氏の今までにない大展覧会でありました。奈良氏が「これまで描いてきた、そしてこれから描いていく作品へむけた誓いの展覧会」と言っているように、彼の思いがどの部屋にもあふれんばかりに表現されて見るものを圧倒するものがありました。



今まで奈良美智氏の作品は雑誌の表紙であったりパソコンの画像等で見る小さな画面のものしか見ていなかったのも、何となくマンガチックな絵を想像していたのですが全体的を外れていました。この展覧会を見て、本物の絵を見てなんとびっくりさせられたことでしょう。奈良氏の本物の絵がどんなに迫力があり、見る者に迫ってくるのか。しばらくの間、驚きと感動で動けなくなるほどでした。『頭でっかちの不機嫌な表情の女の子がじっとこちらを見上げている。何かを訴えるように、大人の心を見透かすように』と言っているように、女の子の内面から

訴えるような突き刺ささるような眼差しを感じ見る人を強く引きつけます。女の子は何を求め、これから何をし、どこへ行くのかを考えさせる。この社会に訴える深いものが内面からほとぼしり出て来ていました。こんなすごい作品が那須塩原市に来るということは、リンツとの姉妹都市締結に次ぐ、市の最大の出来事であることを感じざるを得ませんでした。



奈良美智美術館が、今、那須塩原市に建設されています。これが出来上がれば那須塩原市にとっては、芸術文化はもちろんのこと、観光の面にとっても、財政的な面でも大変な宝物になっていくことでしょう。この美術館が完成することを期待して我々市民が深く理解し、歓迎し応援しようではありませんか。と強く思った次第です。

豊田市美術館は常設展示として漆工芸で人間国宝である高橋節郎の展示館を持ち沢山の収蔵品を展示していました。また、豊田市美術館の収集した収蔵品も日本の著名な美術家の作品や外国の著名作家の作品も多数展示し、この美術館が市

民や市民生活の中で大きな影響を及ぼし豊かな感性を養い、豊かな心を育んでいるのが目に見えるようでした。



○別感想

絵について全く見識の無い私であるが、ひとめ見た瞬間に何か引き込まれるものが有った。よく知る洋画や邦画などとは全く異なり、手にナイフを持つ描かれた女の子の目には何かを訴えるものを感じた。かわいらしくもあり不気味さも持ち合わせている。豊田市美術館で案内を頂いた学芸員の鈴木俊晴氏によれば、彼の知る限りこれまでで最も入場者数が多いとのことであった。確かに夏休みとは言え、平日にもかかわらずフロアーや展示室には沢山の若い人がいた。その人気の高さを物語っていた。

ウキペディアによれば、奈良 美智（なら よしとも、1959年12月5日 - ）は、世界的に評価されている美術作家で、ニューヨーク近代美術館（MoMA）やロサンゼルス現代美術館に作品が所蔵されるなど日本の現代美術の第二世代を代表するひとり。特徴的なこちらを見返す人物をモチーフにしたドローイングやアクリル絵具による絵画で知られているとのことである。

作品を鑑賞したうえで奈良美智氏が我がまちに在住していることを誇らしく感じる。美術館を自費で建設中とのことであるが、本市としてもこのような芸術家を市の誇りとし、その活動を支援し、本市の発展に役立てたいものである。

○視察日 平成29年8月30日
○視察地 愛知県一宮市
○テーマ 尾張一宮駅前ビル・子育て支援施設の取り組みについて

1. 視察目的

今回の視察地である愛知県一宮市には、J R尾張一宮駅に隣接した場所に市の図書館や子育て支援センター、市民活動支援センターなどの施設が利用できる複合施設があると聞き、それらの施設と運営内容を視察させて頂いた。

本市でも、黒磯駅前に新たな図書館の建設を進めているところであるので参考にしたい。



2. 一宮市の概要

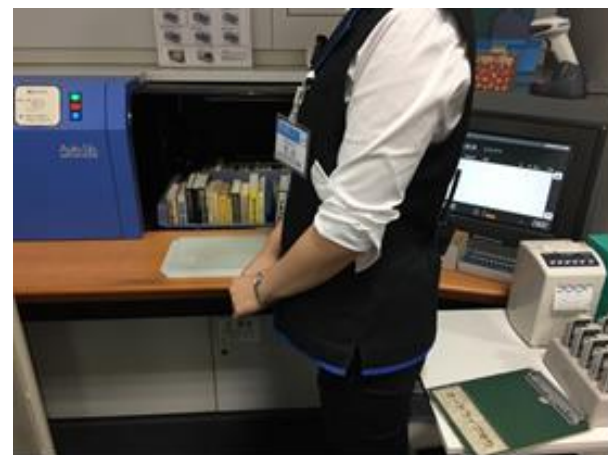
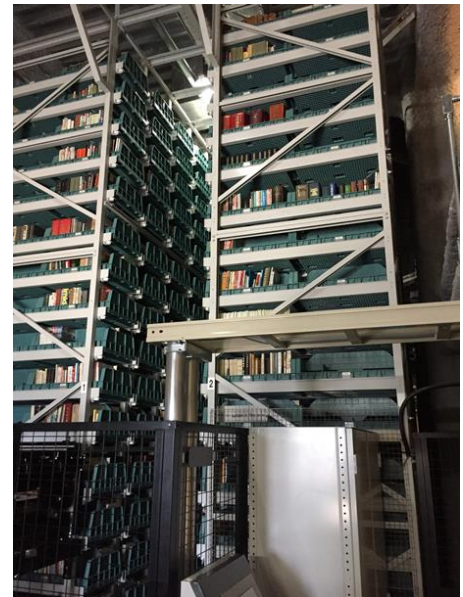
面積：113.82km²、人口：386,300人、J R名古屋駅から10分、東名、名神高速道路、一宮ICから10分程の場所である。本市に比べ人口密度の高いまちであるが、人口減少は本市より進んでいるとのことである。

3. 建物の概要

建物は7階建てでJ R尾張一宮駅に隣接し、現市長の主導のもと合併特例債を資金に建てられたとのことであった。平成24年（2012）年に竣工。3階に市民活動センター、5階に中央子育て支援センター、5階から7階に中央図書館、6階にビジネス支援センターなど、市民生活と企業活動を支援するさまざまな施

設が利用できる複合施設である。

図書館は屋上に自動化書庫があり、各階の図書貸出カウンターのP C操作によって、無人で屋上からカウンターに書籍が届くシステムである。職員が屋上の書庫まで行ったり来たりする必要がなく、自動で書庫収納管理ができるシステムとなっている。



図書室の隣には、自主学习室があり160席が用意されている。当日は夏休み期間ということもあり、学生でほぼ満席であった。

5階の中央子育て支援センターは、市全体で6か所ある市内の中心となるセンターで、土日も開いているとのこと。スペースとしては、あまり広い印象は持たなかった。大田原市のトコトコ的なものであるが遊具はあまり無いが、就学前のお子さんを対象

としたものとしては十分かもしれない。ここで子供を預かってもらい、買い物、病院、美容院、図書館、駅からの移動など非常に便利な位置にある。このまちは、公共交通が整っているので、本市以上に駅前にあることのメリットは大きいと思われる。



4. 子育て支援概要

ファミリーサポートセンターを当ビルに置き、子育ての手助けをして欲しい方と、子育てのお手伝いをしたい方がお互いに助け合う会員組織を作り運営している。援助に対する報酬は1時間当たり700円から900円が設定されている。

そのほかにも、子供一時預かり事業、動く子育てサロン、産後ヘルプ事業、などの説明を受けた。動く子育てサロンは出前のように支援者が保護者と子供の近くの公民館などに出向いて行うとのことであった。その他、いちのみや子育て支援サイトアプリ（子育て支援情報を手軽に得られるアプリ）。LINE友達会員（ラインで仲間とアドバイザーが繋がり、友だち同士預けあうので、親も子供も安心）、電子母子手帳など。



5. 感想

一宮市の図書館は駅近くで子育て支援施設を兼ね備えた複合施設となっていた。図書館には学習室、AV室、インターネットブースなどもある。そこに子育て支援施設を置くことによってより利用者が増加し複合施設のメリットが出てくる。

本市でもコンパクトで持続可能な都市構造への転換を図っていくために、地域の核である黒磯駅周辺を中心拠点区域に位置付けた都市再生整備計画（黒磯駅周辺地区）を平成26年3月に策定し、平成30年度末までに各種の施設を整備していくことで進めているが、図書館としてだけでなく市民に喜ばれる機能をよく検討して使いやすい、親しみの持てる図書館になることを期待する。

また、子育て支援はどこの自治体でも力を入れている。電子母子手帳や動く子育てサロンなど本市でも検討の余地があると思われる。

